

9/12(土)まじど! 倫理が、食は口にするものばかりではなく、食卓を囲む家族の
柔らかな表情も栄養素である、ちやうどまじどまじど
ごちそう様です。 幸せ運ぶアホ鳥

2020.9.12~9.18

今週の

倫理

9月のテーマ | 食は命の恵み

1194号

気心の知れた人との会食は楽しいもので
す。和気あいあいの食卓に着くと、明日へ
の活力が充電されます。一方、一人で食事
をするという人もいるでしょう。口に食べ
物を運ぶという営みを通して、私たちは、
実は大事なことも学んでいるのです。

一、日々繰り返し返すことの威力

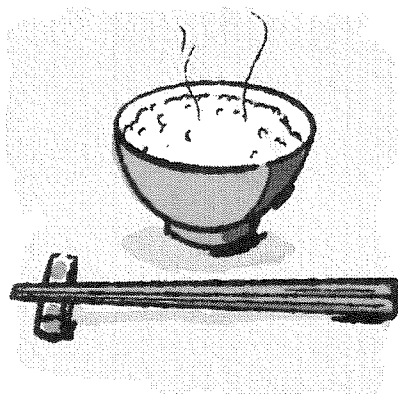
「毎日同じことの繰り返しでつまらない、
マンネリだ」と嘆き、その生活に何の意味
があるのかと行き詰まる人がいるかもしれ
ません。そのような時、もし一日だけ食事
を抜いたとしたらどうなるでしょう。毎日
口にすると、米、野菜、魚や肉を食べること
を止めてみるのです。耐えられないほどの
空腹に至った時、繰り返し食している大事
さ、有り難さに気づかされるでしょう。

二、親の尊さ・配偶者への感謝

胎児は母体の中で栄養を摂取します。生
まれてすぐ、母乳等によって育てられます。
その後、食事を与えられ、成長していきます。
今日の自分の身体が形成されるのです。我
が子の食への欲求に心を砕かない親はいま
せん。食事をいただく際は、そうした親の
成育の恩にも心向けたいものです。

三、団欒の尊さ

食事中にテレビを消すことを家の約束事
としているところもあるでしょう。食事の
時間は単に空腹を満たし、栄養を摂ればよ
いというものではありません。かつては囲
炉裏を囲み今日の出来事を語り合いながら
心も満たしつつ、明日の働きに必要な養分



食を通して 何を学ぶのか

を摂取しました。これは現代においても同
様です。食卓を囲む家族の柔らかな表情も
大切な栄養素であると心得たいものです。

*

以下は、生命の尊さについて尋ねた、あ
る小学五年生の「道徳」の授業でのエピソードです。先生が「なぜ、一人ひとりの生
命は尊いのか」と問うと、一人の女の子が
挙手して答えました。

「生まれてから今まで、この命が守られ
ているのは、毎日ご飯を食べているからだ
と思います。昨日も、今朝も、魚や肉や野
菜をおかずにご飯を食べました。食べ物
みんな生き物だから、私に食べられちゃう
前は生命を持っていました。(略)私のこ
の生命のなかには、ものすごくたくさん
ほかの生きものの生命があるし、前に食べ
たあの食べ物も生命は、ほかの人が食べた
ものの生命と取り替えることはもうでき
ません。だから、自分の生命は尊いと思
うんですけど……」

その女の子の考えの深さに、教諭は驚く
と同時に、ねらい通りの回答を得たことに
満足しました。すなわち、自分の生命は「た
った一つ」だから尊いというよりも、「一
つではない」から尊い、ということでした。

『「いのち」の輝き』丸山敏秋著／新世書房

*

他の生命が血肉となつて自分に融け込ん
でいる……。一つではないからこそ、我が
生命は尊いのです。肉体は、まさに日々の
食事によってなされているのです。